

平成28年度

## 全国学力・学習状況調査の結果について

山梨県教育委員会

### 1 調査の本県の概要

○実施日 平成28年4月19日（火）

○目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○対象 小学校第6学年，中学校第3学年の全児童生徒

○調査内容

- ・教科に関する調査は、国語，算数・数学から出題。
- ・国語，算数・数学については、主として「知識」に関する問題：A問題（身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容など）と、主として「活用」に関する問題：B問題（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）を出題。
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施。

○県内(公立学校)の参加状況

	公立小学校	特別支援学校 小学部	公立中学校	特別支援学校 中学部	合計
学校数 (分校含む)	174校	0校	81校	1校	256校
児童生徒数	6,922人		7,108人		14,030人

## 2 教科に関する調査の本県の結果

### (1) 全体の結果

各教科の結果（公立）

		小学校調査				中学校調査			
		国語		算数		国語		数学	
		A	B	A	B	A	B	A	B
平均正答数 ／設問数	本県	10.7 ／ 15	5.8 ／ 10	12.4 ／ 16	6.1 ／ 13	24.8 ／ 33	6.1 ／ 9	22.0 ／ 36	6.6 ／ 15
	全国	10.9 ／ 15	5.8 ／ 10	12.4 ／ 16	6.1 ／ 13	25.0 ／ 33	6.0 ／ 9	22.4 ／ 36	6.6 ／ 15
平均正答率	本県	71.3	58.2	77.2	46.6	75.0	67.5	61.0	43.8
	全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1
全国平均正答率との差		-1.6	0.4	-0.4	-0.6	-0.6	1.0	-1.2	-0.3
H27【悉皆】 全国平均正答率との差		-1.5	-0.6	-1.1	-3.1	0.3	0.4	-0.8	-0.4

#### ○全体の概要

全体的には、全国平均正答率を下回っている教科が多いが、全国との差は着実に縮まり、改善の傾向にある。

- ・全体的に昨年度まで課題であったB問題が改善されている。特に、小学校の底上げが図られている。小学校算数Bは、昨年度全国平均正答率との差が-3.1であったが、今年度は大きく2.5ポイント上昇した。
- ・本県の平均正答率の合計と全国の平均正答率の合計を平成25年度と平成28年度で比較すると、その差は-11.3から-3.3に縮まった。（次頁図1）
- ・中学校3年の結果を見ると、3年前（平成25年度）の小学校6年の状況から改善し、全国平均正答率との差は縮まり、7.6ポイント上昇していることが分かる。（次頁図2）

※教科に関する調査の平均正答率は、±5%の範囲内（-1.6%から+1.0%）にあり、文部科学省が言う±5%の範囲内であれば大きな差はないと判断できる。

#### ○「知識」「活用」に関する問題について

- ・平均正答率で見ると、どの校種、教科においても「知識」に関するA問題よりも、「活用」に関するB問題の方が低く、全国と同様の傾向が見られる。
- ・一方、全国の平均正答率との差で見ると、「知識」に関するA問題に課題が見られる。

図1 本県平均正答率の合計と全国平均正答率の合計の差の推移

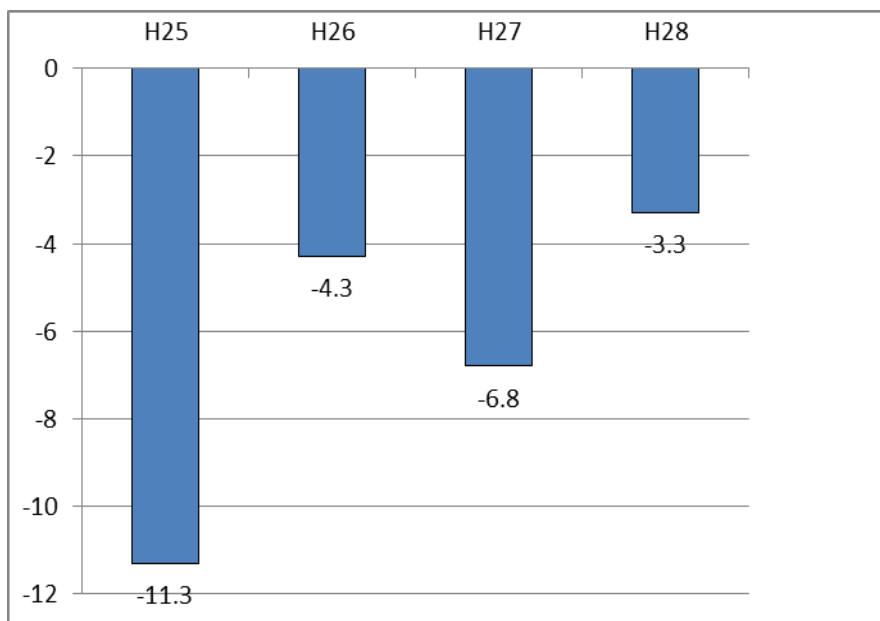
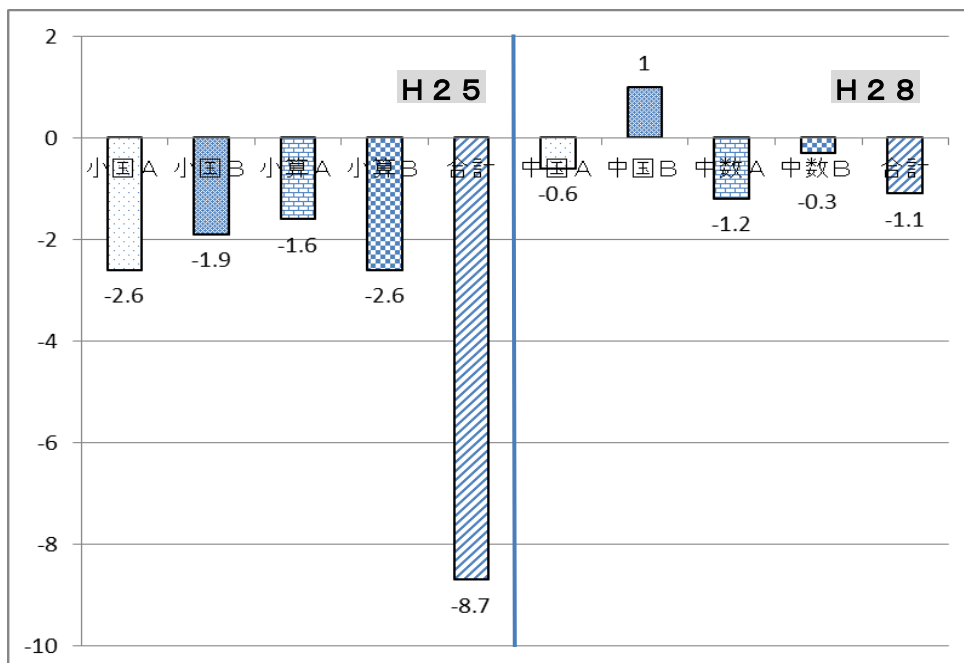


図2 小学校6年（H25）と中学校3年（H28）における全国平均正答率との差



(2) 各教科の概要

◎よくできている点

△課題がある点

小学校

国語	A	◎目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うことができている。 △漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。
	B	◎目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことができている。 △グラフを基に、分かったことを的確に書くことに課題がある。
算数	A	◎繰り下がりのある減法の計算をすることができる。 △1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解することに課題がある。
	B	◎示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができる。 △示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することに課題がある。

中学校

国語	A	◎登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができる。 △漢字を書くこと、文字の形や大きさ、配列に注意して書くことに課題がある。
	B	◎目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。 △根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題がある。
数学	A	◎空間における直線と直線との位置関係（辺と辺がねじれの位置にあること）を理解することができる。 △関数領域で、1つの事象について、表、式、グラフに表し、それらを相互に関連付けて理解することに課題がある。
	B	◎与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる。 △記述式の設定で、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

(3) 各教科の概要に関する具体的な設問

経	経年比較で成果や課題が見られる設問
差	全国の平均正答率と大きな差が見られる設問
正	平均正答率が高いまたは低い設問

小学校

		設 問	山梨県 正答率	
国 語	A	◎全校集会で歌う歌を決めるために、どのように話し合っているのか、話し合いの説明として適切なものを選択する〔2〕 △漢字を書く（先生に <u>そう</u> だんする）〔1二3〕	80.0%	正
	B	◎「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する〔3一〕 △「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する〔2一〕	56.4%	差
算 数	A	◎905－8を計算する〔2（1）〕 △定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く〔9（2）〕	90.2%	経
	B	◎1辺が9cmの正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く〔1（1）〕 △示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く〔5（1）〕	40.7%	正
			51.6%	正
			93.2%	正
			6.1%	正

中学校

国 語	A	◎「私」にとってのライスカレーを説明したものとして適切なものを選択する〔3二〕 △漢字を書く（今までにない <u>ドクソウ</u> 的な考えだ）〔9一2〕 △題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する〔9六〕	90.7%	正
	B	◎関連イベントの「～職人の技を見てみよう～」に参加することができる日付として適切なものを選択する〔1二〕 △図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く〔3三〕	20.8%	差
数 学	A	◎三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く〔5（1）〕 △一次関数の表からグラフを選ぶ〔10（1）〕	30.7%	差
	B	◎1試合の時間を16分とするとき、1回の休憩の時間を求める〔1（1）〕 △文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する〔6（2）〕	83.2%	正
			57.2%	正
			78.0%	経
			60.2%	経
			78.3%	正
			15.2%	正

### 3 生活習慣や学習環境等に関する調査の本県の結果

#### (1) 児童生徒質問紙

※上位3項目

##### ①全国平均と比べてよい内容

- ・仲間と協力し、失敗を恐れずに挑戦するなど、明るく素直に学校生活を送っている。
- ・多くの児童生徒が地域の行事に参加している。
- ・学級会において、グループで話し合ったり、学級全体で意見交換をしたりして課題を解決する様子が見られる。

質問項目	山梨県	全国との差
<小学校>		
・学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている	70.9%	+12.3
・昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週に1回以上行く	26.3%	+9.9
・今住んでいる地域の行事に参加している	77.6%	+9.7
<中学校>		
・今住んでいる地域の行事に参加している	59.4%	+14.2
・あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う	89.4%	+11.0
・学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている	68.9%	+10.5

②全国平均と比べて課題がある内容

- ・授業において、児童生徒が学習の目標とまとめを意識していない状況がある。
- ・家庭学習に1日当たり1時間以上取り組む児童生徒の割合は、6割程度に留まっている。

質問項目	山梨県	全国との差
<小学校>		
・5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う	84.5%	-3.4
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）	60.1%	-2.4
・週に1回以上、新聞を読んでいる	22.3%	-1.7
<中学校>		
・1，2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う	63.9%	-12.9
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たり1時間以上、勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）	63.9%	-4.0
・家で、学校の授業の予習をしている	30.4%	-3.8

## (2) 学校質問紙

※上位3項目

## ①全国平均と比べてよい内容

- ・博物館や科学館，図書館を利用した授業が行われている。
- ・教科や領域の専門性を高めるための研修に参加している。
- ・中学校においては，長期休業日を活用した補足的な学習が行われている。

質問項目	山梨県	全国との差
<小学校>		
・算数の授業において，前年度に，チームティーチングによる指導を行った（年間の授業のうち，おおよそ1／2以上）	49.5%	+15.9
・前年度までに，博物館や科学館，図書館を利用した授業を行った	60.4%	+14.2
・個々の教員が，自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており，校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加している	96.0%	+13.0
<中学校>		
・前年度に，長期休業日を利用した補足的な学習サポートを延べ5日以上実施した（実施した日数の累計）	78.0%	+22.5
・生徒自ら学級やグループで課題を設定し，その解決に向けて話し合い，まとめ，表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	84.2%	+20.6
・前年度までに，博物館や科学館，図書館を利用した授業を行った	39.0%	+18.6



②全国平均と比べて課題がある内容

- ・小中連携の項目において、全国平均との開きが見られる。小中学校で教員同士の交流は行われているが、「課題の共有」や「教育課程の接続」については取組が少ない。
- ・習熟の段階に応じて、少人数による指導を行っている学校が少ない。

質問項目	山梨県	全国との差
<小学校>		
・算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした（年間の授業のうち、おおよそ1／2以上）	14.3%	-19.3
・算数の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った（年間の授業のうち、おおよそ1／2以上）	8.0%	-16.9
・前年度までに、平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した	41.9%	-7.6
<中学校>		
・前年度までに、平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した	30.5%	-23.4
・学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれる	56.1%	-18.0
・前年度までに、近隣等の小学校と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流を行った	68.2%	-16.8

## 4 今年度の取組

※下線が新規の事業・取組

### 1 学力向上総合対策事業の推進

#### 授業改善

##### ○山梨県学力把握調査事業

- ・節目となる学年における児童生徒の学習の定着状況を把握する。
- ・県の学力把握調査の結果により課題の見られた問題を抽出するとともに、全国学力・学習状況調査の結果を受け、課題のある学習内容についてのピックアップ問題を作成し、改善に取り組む。

##### ○授業改善プラン実践事業

- ・県が示す「授業改善のポイント」を基に「授業改善プラン」を作成し、その活用及び研究成果の普及を通して、県内小・中学校の授業改善を促す。

##### ○学力向上アクティブ・ラーニング推進事業

- ・4校の実践検証校におけるALに関する研究及び実践を通して、学習内容や指導方法の改善を促進し、確かな学力の向上と教育課程の充実を図る。

#### 教師の資質向上

##### ○若手教員グロウアップ事業

- ・教職経験3年以内の教員（期間採用を含む）の資質向上を図るため、退職教員（アドバンスティーチャー）を派遣し、学習指導や学級経営等に関する専門的指導等を行う。

##### ○ミドルリーダー研修事業

- ・学校組織において中堅となる教員を対象にした研修を行い、教員の資質向上に向けた系統的な研修体制を整える。

#### 家庭・地域との連携

##### ○学力向上フォローアップ事業

- ・児童生徒の基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るため、放課後や土曜日等を活用した児童生徒への補習的学習を実施する。

##### ○家庭学習定着促進事業

- ・児童生徒と保護者が家庭学習の重要性を共有し取組を促すため、リーフレット等を作成する。

##### ○学力向上の集いの実施

- ・県下5地域で、各教育事務所等との連携の下、保護者等を対象に各地域の課題や実態に応じた学習会を開催する。
- ・家庭学習の習慣化や保護者への働きかけ、学力を高めるポイントについて、実践発表や講演等を行う。

## 2 教育監，学力向上対策監による市町村教育委員会の訪問，学校訪問の実施

- ・市町村教育委員会を訪問し，教育長との面談を通して，地域や家庭，学校の様子等を把握する。
- ・学校長との面談と授業参観を通して学校の現状を把握するとともに，学力向上等の取組を支援する。

## 3 地域の実態に応じた取組の実施

- ・地域学力向上推進幹を中心に，各地域の特色や課題に焦点を当てた学力向上対策を進める。

## 4 県教委による自己採点の実施

- ・文部科学省に先駆けて小・中学校各300名程度の答案を指導主事が採点し，結果の概要をまとめ，誤答を分析した。昨年より3ヶ月早く結果の分析と県として取り組むべき課題を示し，各学校におけるより早期の授業改善を推進した。

## 5 学力先進県視察の実施

- ・学力向上に成果をあげたり，先進的な取組を行ったりしている県市に，指導主事を派遣し情報収集を行う。

## 5 結果を踏まえた今後の取組

### ○「教育監，指導主事」による学校訪問

- ・市町村，学校毎の状況を把握し，指導改善の取組の周知・徹底を図る。

### ○「授業力養成講座」や「授業力アップ講座」の開催

- ・全国学力・学習状況調査の結果を受けて，各教科における課題を取り上げ，指導技術等の向上を図る。

### ○「学力向上フォーラム」の開催

- ・大学の教授を講師に招聘し，授業改善の取組についての講演やパネルディスカッションを行う。

### ○「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・県の学力把握調査や全国学力・学習状況調査の結果を受け，課題がある学習内容についてのピックアップ問題を作成し，改善に取り組む。

### ○「チャレンジ問題」の作成と配信

- ・昨年度作成した小学校算数に加え，小・中学校国語，中学校数学で課題が見られた設問に対応する「チャレンジ問題」を作成し，課題の改善を図る。